

学部4回生・大学院生のための
日本語文献探索のキソ

卒論・研究きちんとスタート！シリーズ①

2026.6 大阪大学総合図書館 学習・調査支援担当（参考調査カウンター）

皆さんこんにちは。

e-learning教材「学部4回生・大学院生のための 日本語文献探索のキソ」をご覧ください、ありがとうございます。

この教材は、人文・社会科学分野の学部4回生・大学院博士前期課程1年生の方を対象にした内容となっています。

「卒論・研究きちんとスタート！」 シリーズのラインナップ

- ①学部4回生・大学院生のための日本語文献探索のキソ
必要と思われる文献の書誌情報を得る
- ②学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法
得た書誌情報をもとに実際に論文を入手する



[図書館Webサイト](#)にてe-learning教材を公開中！



「卒論・研究きちんとスタート！」シリーズは2つの教材で構成されています。

一つ目が、この教材「学部4回生・大学院生のための日本語文献探索のキソ」です。

文献探索を行い、自分にとって必要と思われる文献の書誌情報（論文のタイトル、著者名、雑誌名といった情報のこと）を入手する方法を学びます。

二つ目は「学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法」です。

文献の書誌情報をもとに、今度は論文の本文を入手する方法について詳しく学びます。

図書館のWebサイトでe-learning教材を公開中です。興味のある方はぜひご覧ください。

本講習会の目標と構成

先行研究調査の意義と方法を知り、芋づる式調査や文献データベースを適切に活用できる

1. 先行研究調査の意義
2. 「芋づる式」調査
3. 文献データベースの活用
4. 日本語図書調査
5. 日本語論文の調査 : CiNii Researchを事例に

補遺. シソーラスを備えたデータベース

この教材の目標は「先行研究調査の意義と方法を知り、芋づる式調査や文献データベースを適切に活用できる」ことです。内容は、1～5の構成になっています。

1. 先行研究調査の意義



では、第1章「先行研究調査の意義」をはじめます。

先行研究調査の意義：学習者と研究者

学習者のフェーズ

目的：既存の知識や研究を理解し、基礎を磨く



文献から基本的な考え方や知識を学ぶ



関連資料を知り、自分の位置づけを確認する



情報の探し方や引用のルールを身につける



研究者のフェーズ

目的：新しい知見を生み出し、価値を示す



まだ十分に扱われていないテーマや課題を見つける



先行研究を根拠に、自分の主張の妥当性と独自性を示す



新しい知見を共有し、学術的な貢献を行う

まとめ

- 図書や論文などの資料は、著者の調査と研究の積み重ねの成果
- その資料を基に調べ、理解し、発展させていくことが学びと研究の基本



過去の研究の積み重ねの上に新しい研究が生まれる
「巨人の肩に立つ」ことが研究の出発点である

5

「先行研究調査」とは、自分の研究テーマについて、すでにどんな研究があるかを文献から調べることです。

研究は主に論文や学術書などの文献で発表されるため、最初に文献を適切に集めて読むことが重要です。

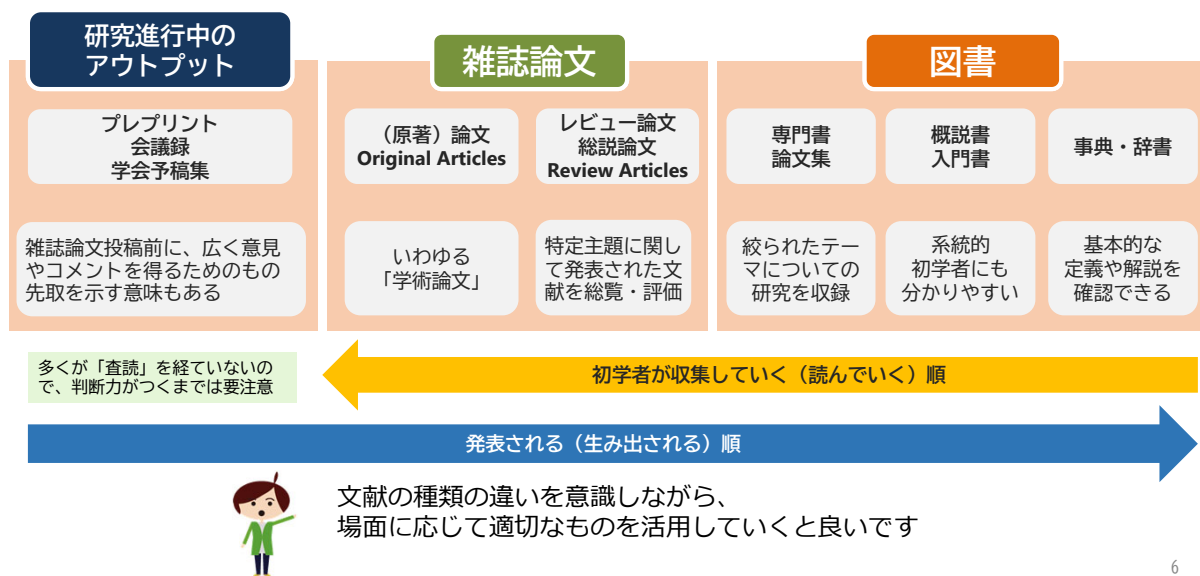
学習者と研究者、それぞれの視点から見た「先行研究調査」の大切さを説明します。

「学習者」としては、既存の知識や研究を理解し、基礎を抑えるということが目的です。事典や概説書などの基本書から基礎を学び、専門書や論文で具体的な研究方法を学びましょう。また、先行研究の限界や意見の対立点を整理することで、自分の研究テーマを絞り込む手がかりになります。

「研究者」として先行研究調査をする目的は、自分の研究で既存の知識に新しい知見を生み出し、価値を示すことです。新規性を判断するには、関連する先行研究を広く調べる必要があります。求められる「新しさ」の水準は、研究分野や学術的な段階によって異なります。たとえば、卒業論文で求められる「新しさ」と、博士論文で求められる「新しさ」とは大きく異なりますので、指導教員の助言を受けながら進めることが重要です。論文では、先行研究を踏まえたうえで、自身の研究の意義を明確に示すことが求められます。

このように、先行研究調査は学習とともに、研究にも欠かせないプロセスといえます。

研究の流れと学術文献の関係



研究の流れと学術文献の関係を図に示しました。

一口に「学術文献」といってもさまざまな種類がありますが、スライドには主なものをあげています。

大きくくりとして右端の図書、それから中央の雑誌論文があります。ただし、図書に分類される論文集と、雑誌論文に分類される、レビュー論文は、似通った性質を持ちます。

また、左端の研究進行中のアウトプットの図を見ていただくと、プレプリントや会議録などは、研究分野によって学術文献として流通することもあります。

研究成果はまず論文として発表され、議論や引用を経て、やがて図書としてまとめられることも多いです。

学習者が先行研究調査を始めるときは、いきなり論文を読むのではなく、まず事典や概説書などの図書から読み始めて、分野の基礎知識や全体像をつかむのが効果的です。

文献の種類や読む順番を意識して、目的に合った文献を活用しましょう。

先行研究調査の2つのアプローチ

参考文献をたどる芋づる式調査 : 2章

メリット : 研究の流れを掴みやすく、理解を広げやすい

デメリット : 参照関係に含まれていない関連文献を見落とす可能性

文献データベースの活用 : 3~5章

キーワードを使って、文献情報を検索する

メリット : 適切に活用すれば、多くの文献を発見可能

デメリット : 使い方を誤ると、見逃しが多く発生する

7

ここからは、先行研究調査の2つのアプローチを紹介していきます。

1つ目は、参考文献をたどる、「芋づる式」という方法です。研究の流れを把握できるというメリットがあり、特に初学者にとっては、理解を広げる有益な方法ですが、直接参照されていない関連文献を見落とす可能性がある点には注意が必要です。

2つ目は、文献データベースの活用です。「文献探索」と聞いてまず思い浮かべるのは文献データベースでの検索だと思います。メリットは、多くの文献を発見できること、一方、デメリットは、使い方がよくないと、見逃しが多く発生してしまう可能性があるということです。

人文社会科学系の日本語文献データベースは、検索機能があまり充実していないものが多いため、使い方を工夫しないと、うまく活用できないことがあります。教材の後半で、このようなデメリットを回避できるよう、文献データベース検索のコツを紹介します。

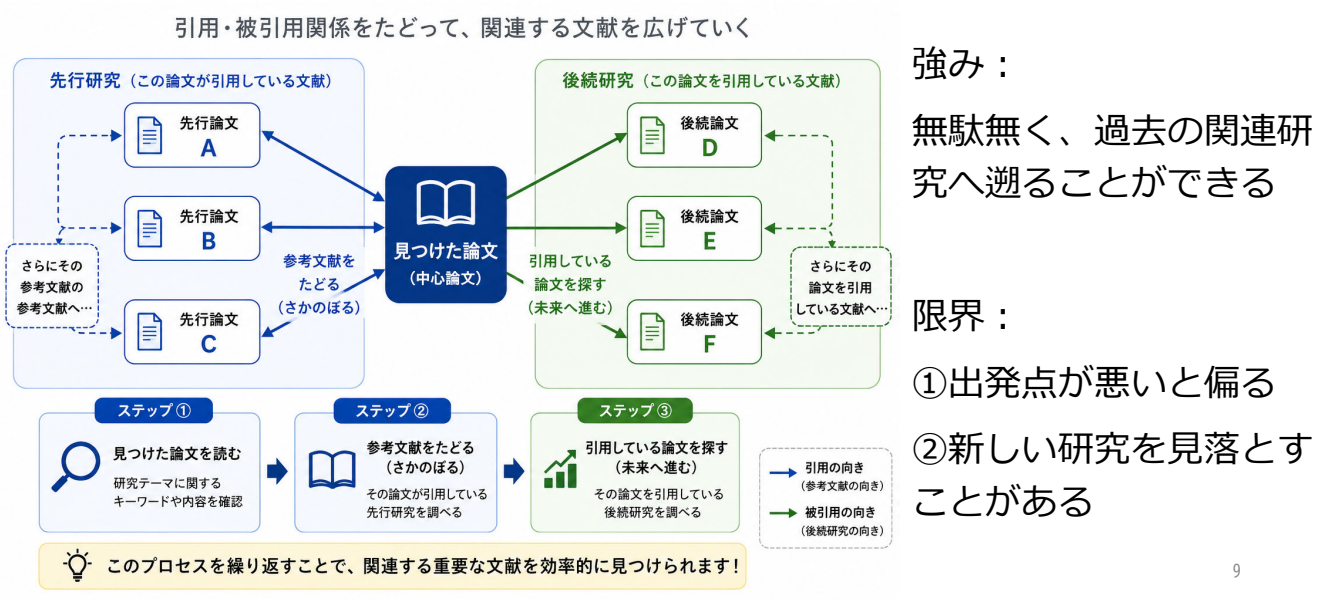
では次のスライドから、「芋づる式」の調査方法について詳しく紹介します。

2. 「芋づる式」による 先行研究調査



この章では、先行研究調査のアプローチのうちの1つ、「芋づる式」について詳しくみていきます。

「芋づる式」による先行研究調査：強みとその限界



強み：

無駄無く、過去の関連研究へ遡ることができる

限界：

① 出発点が悪いと偏る

② 新しい研究を見落とすことがある

この図は、芋づる式調査のイメージ図です。

中央に見つけた論文（中心論文）があります。この論文は、過去の研究を引用しながら書かれています（左側の青色部分）。また、この論文自身も後続の研究に引用されていきます（右側の緑色部分）。

このように研究は単独で存在するのではなく、先行研究を引き継ぎながら発展していきます。

雑誌論文や学術書には参考文献リストがあり、引用・参照した文献を明示することが研究のルールです。この参考文献をたどって関連文献を探す方法を「芋づる式調査」と呼びます。

先行研究調査では、中心論文から左側の参考文献をたどることで、研究の流れを効率よく把握できます。キーワード検索よりも関連性の高い文献を見つけやすいことが利点です。

一方で、芋づる式調査の限界は、出発点となる論文に偏りがあると、集まる文献も偏る可能性があるということです。また、新しい論文はまだ引用されていないため見落とししやすいことです。さらに、たどるほど文献数が増える点にも注意が必要です。

なお、図の右側、緑色の部分は、中心論文を引用している後続研究をたどる方法です。後続研究は、Web of Science や Scopus などの引用文献データベースで調べることができます。日本語論文の場合は、後ほど紹介する CiNii Research や J-STAGE に収録されている論文で確認できる場合があります。

研究初期段階における芋づる式の活用法

新しい文献からたどる

新しい文献ほど、それまでの研究成果を踏まえている

基本文献からたどる

研究の流れを把握しやすい

文献の見落としを防ぎやすい

参考文献リストは著者が選んだ文献であり、偏りや漏れが生じることがあります。1つの文献に頼らず、複数の文献からたどりましょう。



10

研究の初期段階で芋づる式調査を活用する際には、2つのポイントがあります。まず1つ目は、新しい文献を起点にすることです。新しい文献ほど、それまでの研究成果を幅広く踏まえていることが多いからです。どの文献からたどり始めるか迷った場合は、できるだけ新しい文献を選ぶとよいでしょう。

2つ目は、専門的な論文ではなく、基本文献を起点にすることです。専門的な論文の参考文献リストは、そのテーマに特化した文献に絞られていることが多く、調査範囲が限定される場合があります。一方で、テーマ全体を概観したレビュー論文や概説書などの基本文献は、研究の流れを把握しやすく、関連文献も幅広く紹介されています。そのため、先行研究調査の初期段階では、まず基本文献から調べ始めることで、文献の見落としを防ぎやすくなります。次に、このような起点となる基本文献について紹介します。

研究初期段階で起点とする基本文献

参考図書（事典・辞書・ハンドブック・便覧など）

用語・テーマの全体像をつかむ

- 学会や専門家グループが編集したものがおすすめ
- 項目ごとに専門家が執筆している事典・ハンドブックは特に有用

概説書・入門書

分野全体をつかむ

- その分野の基本文献が参考文献として紹介されていることが多い
- 初学者向けの文献案内やブックガイドが掲載されていることもある

専門書

研究史をたどる

- 専門書序章などで研究史が整理されていれば、先行研究調査の起点として有効

レビュー論文

関連文献をまとめて見つける

- そのテーマの研究動向を整理した論文
- 多くの関連文献への起点となる
- 「レビュー」「総説」「〇〇の課題と展望」などのタイトルが目印
- 定期的にレビュー論文を掲載する雑誌もある



初めてそのテーマの先行研究調査を行うときに、芋づる式調査の起点として特におすすめなのが、このスライドに示した4種類の文献です。

まず1つ目は、参考図書（事典・辞書など）です。参考図書は、調べたいテーマの全体像や基本的な考え方を把握するための出発点になります。特に、学会や専門家によって編集されたものは信頼性が高く、解説とあわせて参考文献も確認できます。総合図書館A棟2階の参考図書コーナーのほか、一部はデータベースや電子ブックでも利用できます。

2つ目は、概説書・入門書です。概説書や入門書は、その分野の基礎知識を学ぶための学術書です。参考文献として、その分野の基本文献が紹介されていることが多く、初学者向けの読書案内が掲載されている場合もあります。総合図書館では、A棟3・4階の学習用図書エリアや新書コーナーなどで利用できます。

3つ目は、専門書です。専門書は内容が高度ですが、序章などで研究史が整理されていることがあります。研究史の中で繰り返し言及される文献は、その分野で重要な文献である可能性が高く、先行研究調査の起点として有効です。専門書は、A棟3・4階の学習用図書エリアのほか、A棟5階の研究用図書エリアや書庫棟にも所蔵されています。

4つ目は、レビュー論文です。レビュー論文は、あるテーマに関する研究動向を整理し、関連研究をまとめて紹介する論文です。多くの関連文献への入り口となるため、先行研究調査では非常に有用です。タイトルに「レビュー」「総説」「課題と展望」「現状と展望」「回顧と展望」などの語が含まれていることがあります。また、定期的にレビュー論文を掲載する学術雑誌もあります。

研究初期段階で起点とする基本文献

資料の種類	主な役割	向いている場面
参考図書	テーマや用語の全体像を把握する	テーマを決めた直後
概説書・入門書	分野の基本文献を知る	分野全体を学び始める段階
専門書	研究史や主要な論争を把握する	研究テーマを絞り込む段階
レビュー論文	関連研究を効率よく一覧する	先行研究を網羅的に探す段階

「どの文献を起点にすればよいか」を判断するのは、初めて研究に取り組む人には難しいこともあります。

スライドの表に、どの文献をどの場面で使うのが向いているかということを入れてまとめていますので参考にしてください。

まずはご自身で候補の文献を探し、そのうえで指導教員の先生に相談してみるのもよいでしょう。

研究が進むにつれて、注目した文献を手がかりに、自分なりに文献を取捨選択しながら調査できるようになります。それが芽づる式調査の力です。

3.文献データベースの活用



この章からは、先行研究調査のもう1つのアプローチとして、文献データベースの活用について紹介していきます。

Google・Google Scholar・生成AIの限界

網羅性

- 収録範囲や選定基準が不明確
- 重要文献の見落としを防げない

検索性

- 検索条件や絞り込み機能に限界がある
- 検索結果の表示基準が分かりにくい

信頼性

- 書誌情報が不十分な場合がある
- 生成AIは誤情報（ハルシネーション）の可能性がある

その他

- Googleは学術文献以外の情報も多い
- 生成AIは入力データの取扱いに注意が必要



先行研究調査では文献データベースを基本とし、
Google・Google Scholar・生成AIは補助的に利用しましょう

14

先行研究調査に、Google や Google Scholar、生成AIを使えないのかという疑問をお持ちの方、あるいは、もうすでに使っているという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

ここではそれらのツールの限界を図に示しています。

未知の分野の概要をつかんだり、検索キーワードを考えたりする際には便利なツールですが、先行研究調査では「できるだけ漏れなく、正確に文献を集めること」が重要です。そのため、これらのツールだけに頼るのではなく、文献データベースを基本として利用する必要があります。

文献データベースを使い分ける



文献データベースとは

- 学術文献を探すための検索サービス
- 学術文献を対象を限定
- 検索・絞り込み機能が充実
- 先行研究調査の基本ツール



使い分けが重要

- 日本語文献／海外文献
 - 図書／雑誌論文
 - 人文社会系／自然科学系
- ➔ 目的に応じて利用するデータベースが異なる

15

Googleのような検索エンジンとは別に、世の中には、学術文献の検索に特化した専門のデータベースが多数存在します。

検索・絞り込み機能が充実しているのは有料のデータベースに多い特徴ですね。

最近では、データベースにAI機能が搭載されているものも増えてきました。

また、検索する学術文献が、どの研究分野の文献か、日本語文献か海外文献か、図書か雑誌論文かといった点によって、使うべき文献データベースは異なってきます。

対象による使い分けがあるというのは、一般的な情報検索と同じです。

例えば、「お店の場所を探すときは地図アプリ」を使い、本を探すときには書店のWebサイトや図書館の蔵書検索システムを使いますよね。

探したいものによって使う検索サービスが違うのと同じように、学術文献を探すときも、研究分野や資料の種類によって適切な文献データベースを選ぶ必要があります。

文献データベースの役割

文献データベースの本来の役割

文献情報（書誌情報）の検索・整理

関連文献の発見

PDFや全文閲覧は付加的な機能

PDFや全文へのリンクは、提供できる範囲に限られる

PDFが表示されなくても利用できる場合がある

PDFの有無だけで文献の重要性は判断できない

よくある誤解

PDFが表示されない = 読めない ではない

PDFが表示される = 重要な文献 でもない

先行研究調査の第一段階は、重要な文献を漏れなく見つけること。
そのために、「検索」と「入手」を分けて考えましょう。



16

文献データベースを使うとき、「PDF（全文）が見られるかどうか」に注目してしまう人が少なくありません。

しかし、本来の役割はPDFの提供ではなく、研究テーマに関連する文献の書誌情報を検索し、関連文献を発見することにあります。

文献データベースによっては全文へのリンクが表示されますが、それは付加的な機能です。契約状況や公開条件によって、PDFが表示されない文献も数多くあります。

だからと言って、その文献が読めないわけではありません。図書館で所蔵していたり、文献複写サービスで入手できたりする場合があります。

逆に、PDFが表示されているからといって、その文献が重要であるとも限りません。

先行研究調査でまず大切なのは、重要な文献を漏れなく見つけることです。

そのためには、「文献を検索すること」と「文献を入手すること」を別の段階として考える必要があります。

まずは必要な文献を見つける。その後で入手方法を考える。この順番を意識しましょう。

4.文献データベースによる 日本語図書の研究調査



ここからは、文献データベースを使った、日本語図書の研究調査について解説していきます。

適切なデータベースの選択：図書

図書を探すためのデータベース

基本的には「どこに本があるか」を調べるためのもの
図書として出版された先行研究の調査にも利用できる
所蔵機関によって利用するデータベースが異なる

日本の学術書の 先行研究調査	探したい資料	データベース
	大阪大学の蔵書	大阪大学OPAC
おすすめ	国内の大学図書館	CiNii Books
	公共図書館	カーリル
おすすめ	国立国会図書館	NDLサーチ
	海外の図書館	WorldCat

18

図書を扱うデータベースは、多くの場合、「どこにその本があるか」を調べるための蔵書検索システムとして利用されます。
一方で、先行研究が図書の形で出版されている場合には、その調査にも活用できます。ただし、所蔵機関によって利用するデータベースは異なります。
大阪大学の蔵書を検索できるものもあれば、国内外の複数の図書館の蔵書をまとめて検索できるものもあります。
そのため、「どこの蔵書を探したいのか」に応じてデータベースを使い分けることが重要です。

日本語の学術書の先行研究調査には、まず CiNii Books と NDLサーチを利用するとよいでしょう。
大学図書館は研究・教育に必要な資料を収集しているため、学術書を探す場合はまず CiNii Books を利用するのが基本です。
阪大OPACは大阪大学の所蔵資料だけが対象ですが、CiNii Booksには大阪大学の所蔵情報も含まれています。
先行研究調査では、まず CiNii Books を使う方が効率的です。
また、国立国会図書館には国内出版物を収集・保存する納本制度があるため、NDLサーチも有力な調査先になります。

図書を検索するときのポイント

現状：図書検索の特徴

図書の検索は、書名・著者名・件名など限られた情報が中心
入力したキーワードと一致しなければ見つからないことがある
図書は扱う範囲が広く、書名にはより広い概念が使われることが多い

対策：検索のコツ

同義語・類義語を考える

上位語・下位語を考える

特に「**上位語**」（ある概念を含むより広い概念）で検索する

調べたいテーマを含む、より広い概念でも検索してみる



図書は特定のトピックではなく、
そのトピックを含むより広いテーマで出版されることが多い

19

現状、図書の検索に使うデータベースでは、詳細な本文検索は期待できません。基本的に、書名や著者名、件名に含まれるキーワードでしか検索できないと考えていただくのがよいと思います。

そして、図書を検索するときは、論文を検索するときよりも、注意深くキーワードを選択しなくてはなりません。

同義語や類義語だけでなく、広い概念の上位語、より狭い概念の下位語なども検討してみましょう。

とくに大切なのが「上位語」です。論文にくらべて、図書は扱っている内容の分量が多く、思いついたキーワードよりも広い概念が図書のタイトルになっていることが多いです。

たとえば、論文だと「ChatGPTの教育利用」のように、具体的なキーワードがタイトルに現れやすい一方、図書はより広い範囲を扱うため、『人工知能』、『教育工学』のような上位概念がタイトルになっていることが少なくありません。そのため、入力したキーワードでの検索結果が思ったより少ない場合は、上位の概念にあたるキーワードで、再度検索してみてください。

CiNii Booksについて <https://ci.nii.ac.jp/books/>

AND, ORなどの論理演算子の検索も可能

「内容検索」タブに切り替えると目次や内容説明の検索可

- ただし、あくまで目次データを持っている資料が対象
- 目次データの収録範囲は主に1986年以降の新しい図書



大阪大学のネットワークから利用すると便利

- 大阪大学の所蔵が一覧の先頭に表示される
- 大阪大学の所蔵の有無を一目で確認できる
- キャンパス外の利用にはCiNiiの画面から機関でログイン
学認フェデレーションから「大阪大学」を選択し、個人IDでログインしてください

※次スライド参照



では、CiNii Booksについて紹介します。

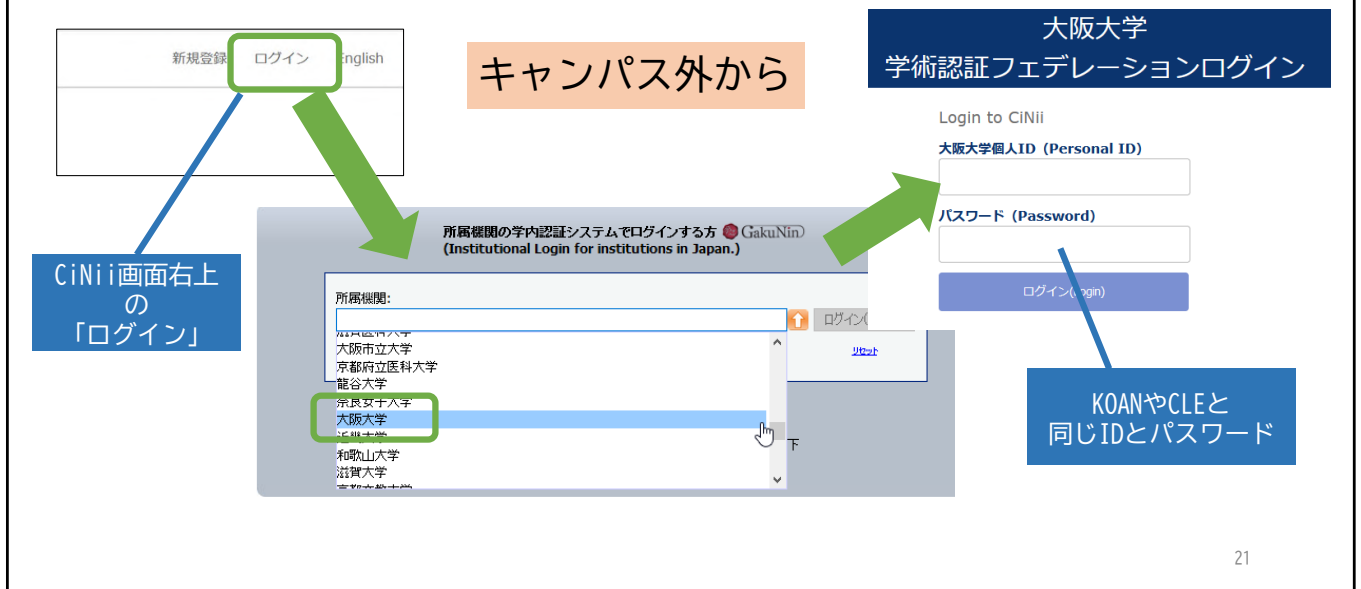
CiNii Booksでは「図書・雑誌検索」タブが初期選択されています。この状態では基本的には書名・著者名・出版社名などでしか検索できません。ここから、「内容検索」タブに切り替えると、目次や内容説明を検索できる資料が増えます。

「図書・雑誌検索」タブでの検索でヒットする資料が少ない場合は、「内容検索」タブを試してみても良いでしょう。ただし、全ての資料に対して目次を検索出来ているわけではないので注意が必要です。

CiNii Booksでは、AND、ORなどの論理演算子を使うことができます。論理演算子については最後の5章で説明します。

また、大阪大学のネットワークからCiNii Booksを利用すると、大阪大学の所蔵が一覧の先頭に表示されます。阪大にあるかどうかを一目で確認できるので便利です。キャンパス外からの利用にはログインが必要です。方法は次の画面をご覧ください。

[参考] CiNii Booksで阪大所蔵資料を発見しやすくする



キャンパス外からアクセスしたときも、大阪大学の所蔵を一覧の先頭に表示することが可能です。
表示する方法としてはこのスライドのとおりで、CiNii Books画面右上の「ログイン」から、所属機関に大阪大学を設定し、大学の個人IDでログインしてください。

NDLサーチについて <https://ndlsearch.ndl.go.jp/>

一部の資料は目次が検索できる

- 目次データの収録範囲は「1987年以前」の比較的古い資料
- 検索の際に「資料種別」を絞り込まない

AND, ORなどの論理演算子を使える



デジタル化資料にアクセスできる

「NDLデジタルコレクション」

- 絶版になった古い学術書
- 戦前・戦後の研究書
- 入手困難な資料

CiNii Booksは学術書を探すための基本ツール、NDLサーチは、CiNii Booksで見つからない資料を補完するツールとして使い分けしてください。



22

次にNDLサーチ、国立国会図書館の蔵書検索システムについて紹介します。こちらにも、基本的には書名・著者名・出版者名で検索できるシステムですが、一部の資料については目次を一緒に検索できます。

NDLサーチの目次データの収録範囲は、1987年以前の古い資料が中心ですが、論文集に含まれる個々のタイトルが検索できたり、最近の図書でも目次でヒットすることがあります。目次を検索したいときには、資料種別を絞り込まないようにしてください。

NDLサーチの特徴の一つは、国立国会図書館デジタルコレクションをはじめとする各種デジタルアーカイブを横断的に検索できることです。

特に、戦前・戦後の学術書や絶版・品切れなどで入手が難しくなった資料はデジタル化されている場合があります。

CiNii Books が主に大学図書館等の所蔵資料を探すためのサービスであるのに対し、NDLサーチは国立国会図書館の資料やデジタル化資料も含めて探すことができます。そのため、CiNii Books で見つからない場合や、デジタル化された資料の有無を確認したい場合に活用してください。

5. 文献データベースによる 日本語論文の先行研究調査 —CiNii Researchを事例に



それでは、第5章では、日本語論文の先行研究調査について解説していきます。

適切なデータベースの選択：雑誌論文

全分野 or 特定分野

日本語論文 or 海外論文

分野	国内文献	海外文献
全分野	CiNii Research	Web of Science Scopus、ProQuest
国文学	国文学論文目録データベース	
日本語学	日本語研究・日本語教育文献データベース	
経済学		EconLit
教育学	教育研究論文索引	ERIC
社会学		SocINDEX
医学・薬学	医中誌Web、J-DreamIII	MEDLINE
自然科学・工学	J-DreamIII	

特定分野のデータベースの
ほうが一般的に、
・その分野に関して、収録
論文が多い
・より高度な検索が可能
(シソーラス等⇒補遺参照)

これらは一例です。
附属図書館Webサイトの
データベース一覧を一度
チェックしてみてください。

24

雑誌論文を探すときは、2つの視点でデータベースを選ぶのが基本です。
そのデータベースが、全分野を対象にしたものか、特定分野に特化したものか、
さらに、日本語論文か、海外論文か、という視点です。
特定分野型のデータベースは、全分野型に比べて、その分野の論文が豊富で、検
索機能が充実していることが多いです。

CiNii Researchとは <https://cir.nii.ac.jp/>

日本語論文を探す代表的な文献データベース

幅広い分野の雑誌論文を検索できる

この講習では CiNii Research を例に検索方法を学ぶ

※ 検索の考え方は他のデータベースにも共通



25

今回は、CiNii Research というデータベースを使って、日本語論文の検索方法を解説します。

CiNii Research は、全分野を対象にした学術情報データベースで、研究データ・雑誌論文・図書・博士論文などを幅広く検索することができます。

今回のように雑誌論文を探す場合は、スライドにあるように、あらかじめ「論文」タブを選択して検索するか、「すべて」で検索した後に、「論文」で絞り込むことができます。

人文社会科学系では、特定分野の日本語論文データベースが存在しない分野も多く、日本語論文の検索では CiNii Research が基本的なデータベースとなります。

この教材で紹介する方法は、特定のデータベースの操作方法というよりも、文献検索の考え方やコツです。そのため、ここで学んだ方法は他のデータベースを利用する際にも応用できます。

なお、CiNii Research には、スライド20で紹介した CiNii Books の機能が統合されていますが、この教材では、検索対象の違いを理解しやすいよう、図書は CiNii Books、論文は CiNii Research、という形で説明しています。

検索例題

選挙活動とウェブ動画の関係性についての先行研究調査

対象の雑誌論文はひとまず日本語のもののみとする

選挙 動画	検索						
すべて 34	研究データ 0	論文 25	本 5	博士論文 0	プロジェクト 3	人物 60	▼ 詳細検索

CiNii Researchで「選挙 動画」で論文を検索
→25件のみヒット

もっと文献がありそうな気がするのだけれど…



26

では、論文の検索をしてみましょう。みなさんも実際に CiNii Research で検索しながら学習してください。

Googleで「CiNii」と検索していただくと、CiNii Research に簡単にたどりつけます。

ここでは、「選挙活動とウェブ動画の関係性」というテーマで先行研究調査を行います。

まず思いつく2つのキーワード「選挙」と「動画」を入力して検索してみると何件ヒットするでしょうか。

スライドでは6/5時点の件数で論文が25件ヒットした画面を表示しています。

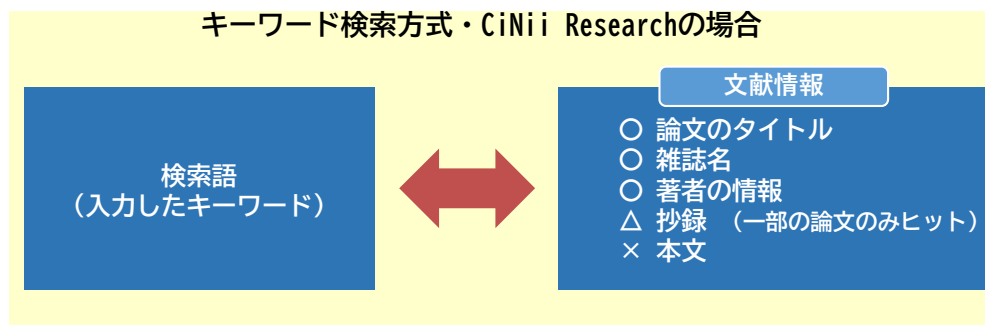
本当にこのテーマの論文はこんなに少ないのでしょうか？この後、いくつかのポイントを解説しながら、検証していきます。

※検索結果の件数は2026/6/5時点のものです。

ポイント1：データベースの検索方式

CiNii Researchは単純な「キーワード検索方式」

検索語と文献情報に含まれる言葉が一致すると、検索結果として表示される



27

検索のポイントの一つ目は、データベースの検索方式に注意する、ということです。

CiNii Research は「キーワード検索方式」のシンプルなデータベースです。入力したキーワード、検索語が、論文タイトル・雑誌名・著者名などの文献情報と一致すると、検索結果に表示されます。

一致しない場合はヒットしません。

ポイント1：データベースの検索方式

検索結果は「言葉の一致」で決まる（表記のゆれにも注意）

例：論文タイトル「若年層の政治参加とユーチューブ動画」

- × 選挙 動画
- × 選挙 YouTube
- 選挙 ユーチューブ

※ データベースは意味ではなく、登録された語を検索している

人の目で見れば、
関係のある論文のように見えますが・・・

 **時代を映した参院選：プーチン、安倍氏銃撃、ユーチューブで投票行動に変化**

芹川 洋一 Voters = ボーターズ：明るい選挙 / 明るい選挙推進協会 編 (70) 7-9, 2022-10

Web Site

大阪大学で本文を探す

28

例えば、スライドの下の方に表示している論文「時代を映した参院選：プーチン、安倍氏銃撃、ユーチューブで投票行動に変化」は、今回探しているテーマに関係しているように思えますが、さきほどの検索ではヒットしません。

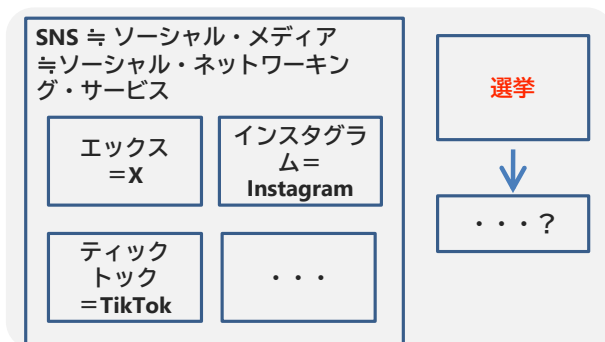
この論文は、「選挙 スペース 動画」や「選挙 スペース（英語の）YouTube」ではヒットせず、「選挙 スペース（カタカナの）ユーチューブ」の検索でようやくヒットします。

論文のタイトルに含まれているとおり、カタカナで「ユーチューブ」と入力しないとヒットしないのです。

そのため、次のポイントであげるような工夫が必要になってきます。

ポイント2：キーワードの検討

キーワード検索方式の場合、キーワードの選択が非常に重要
同義語、類義語、上位/下位語を検討する



自分でうまく思いつかないときは、
参考図書などを使って探してみま
しょう

29

検索のポイントの二つ目は、キーワードを検討することです。
CiNii Research のようなキーワード検索方式の場合、キーワードとして何を選
択するかが重要になります。
同義語や、類義語だけでなく、キーワードからみてより広い概念の上位語、ある
いは、より狭い概念の下位語なども検討してみましょう。

たとえば、SNSというキーワードは、「ソーシャル・メディア」「ソーシャル・
ネットワーキング・サービス」という表現がされているかもしれません。
また下位語としては、エックスやインスタグラム、ティックトックといった、具
体的なサービス名称で表現されていることも考えられるでしょう。
そしてさらに、それぞれのサービス名称についても、言い換えや表記方法の違い
を考えてみる必要があります。

次に、「選挙」というキーワードについても検討しましょう。自分で考えて他の
キーワードが見つからないときには、参考図書などを使って探してみるといいで
しょう。

ポイント2：キーワードの検討

百科事典や辞書類（冊子/オンライン）

例：「JapanKnowledge Lib」複数の辞書・事典をまとめて検索できるデータベース

附属図書館Webサイト TOPページの検索窓上側の「データベース」タブから
自宅から使うときは検索窓下側の「キャンパス外から電子リソースを使う」から

The screenshot shows the University of Osaka Libraries website. The main navigation bar includes '利用案内', '資料を探す', '学習・研究支援', '図書館について', and '4つの図書館'. Below this, there are search options: '図書検索', '電子ジャーナル・ブック', 'データベース', and 'まとめて検索'. A dropdown menu is open under 'よく使われるタイトル', showing '辞書・事典' and 'JapanKnowledge Lib'. A green arrow points from the 'データベース' tab to the 'Off Campus Access' link in the search results. Another green arrow points from the 'キャンパス外から電子リソースを使う' link to the 'Off Campus Access' link. The search results for 'JapanKnowledge Lib' show '40種類以上の辞書・事典、記事、データベース等を基礎知識」、「日本国語大辞典」、「日本歴史地名大系季報」も利用できます。★新編国歌大観使い方ガイド（紀伊國屋書店作成）'. It also shows '同時アクセス数 10' and '日本語'.

参考図書とは、百科事典や辞書などのことです。参考図書にはオンラインで使えるものもあります。

例えば「JapanKnowledge Lib」は、複数の辞書・事典をまとめて検索できるデータベースです。

「JapanKnowledge Lib」は、自宅からも使うことができます。スライドの緑の枠や矢印が自宅から使う方法になります。

阪大図書館WebサイトのTOPページ検索窓の下側、「キャンパス外から電子リソースを使う」からアクセスすると、認証画面を経由して、KOANのIDとパスワードでログインすることで使えます。

また、タブをデータベースに切り替えて「すべてのタイトルを表示」をクリックすると、阪大で契約しているデータベースの一覧が表示されますが、その中で、タイトルの隣にRという赤いアイコンがついていれば、リモートアクセスできるつまりキャンパス外からも使えるデータベースですよ、というしるしです。その右の「Off Campus Access」をクリックすると、認証画面が表示されKOANのIDとパスワードでログインして使ってください。

ポイント2：キーワードの検討

関連する単語を視覚的に得ることができるツール

科学技術振興機構(JST)「シソーラスmap」 科学技術分野の専門用語が中心だが一般的な用語も収録

The screenshot shows the Thesaurus Map tool interface. At the top, the URL <https://thesaurus-map.jst.go.jp/> is displayed. Below the URL is a search bar with the text "ユーチューブ" (YouTube) entered. To the right of the search bar, there are options for "上位 全階層を表示" (Upper: Show all levels) and "下位 0階層中 0階層まで表示" (Lower: 0 levels shown, 0 levels to show). A legend indicates that red boxes represent search terms, blue boxes represent thesaurus terms, and green circles represent large-scale terms. The main area displays a hierarchical diagram of related terms. The search term "ユーチューブ" is highlighted in a red box. It is connected to "情報サービス" (Information Services) and "サービス" (Services). "サービス" is connected to "インターネット" (Internet). A yellow tooltip for "ユーチューブ" provides the following information: 英語: YouTube, 同義語: (なし), 異表記: YouTube, Googleで検索, J-GLOBALで検索, and 「ユーチューブ」の共出現語をグラフ表示. The interface also features a navigation menu on the left with various categories like "検索システム", "Google", "アップロード", "利用数", "言語", "情報サービス", "検索履歴", "モダリティ", "多言語", "映像コンテンツ", "機械学習", "品質", "新興", "コンテンツ", "クロスチェック機能", "検索分析", "Facebook", "応用プログラム", "相互作用", "モデル", "ソーシャルメディア", "アスビリン", "BERT", "Twitter", "感情", "字幕", "視聴者", "オンライン", "グルコース", "ランダムフォレスト", "内容分析", "最適化", "添字", "信頼性", and "情報メディア".

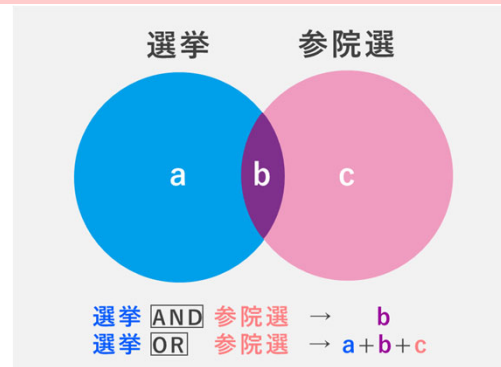
31

キーワードを得るのに便利なツールをここで一つご紹介します。
科学技術振興機構が提供している、「シソーラスmap」というツールです。
科学技術分野の専門用語が中心なのですが、「ユーチューブ」などの一般的な用語も入っています。ある単語の上位・下位の概念や、関連する単語を視覚的に得ることができます。

ポイント3：論理演算（AND/OR など）

種類	CiNii Researchでの入力方法
AND 検索	選挙△参院選 「選挙」と「参院選」両方の キーワードを含む資料を検索
OR 検索	選挙△OR△参院選 「選挙」もしくは「参院選」の どちらかのキーワードを含む資料を検索

※「△」はスペース（半角でも全角でもOK）



同義語、類義語、上位/下位語をOR検索で活用するとより漏れが少ない形での検索ができます。



32

検索のポイントの三つ目は、論理演算です。論理演算を使って、集めたキーワードを有効に活用しましょう。

最もよく使う論理演算としては、AND検索とOR検索の二つです。

AND検索は入力した全てのキーワードを含むものを検索する方法です。CiNii Researchではキーワードの間にスペースを入れるとAND検索になります。グーグルなど一般的な検索のイメージと同じです。

一方、OR検索は、入力したキーワードのどれか1つを含めば良い、という検索方法です。

CiNii Researchではキーワードとキーワードの間に大文字の「OR」を入力することで、OR検索になります。特に、同義語、類義語、上位語、下位語をOR検索で活用すると、より漏れが少ない形での検索が可能です。

なお、データベースによって、使用できる論理演算の種類や入力方法は異なりますので、新しいデータベースを使うときは、まずヘルプページやマニュアルを確認してみることをおすすめします。

検索例題を実際にやってみよう

検索例題：

選挙活動とウェブ動画の関係性についての先行研究調査

- 対象の雑誌論文はひとまず日本語のもののみ
- 使用するデータベースはCiNii Research

<https://cir.nii.ac.jp/>

- ・ 検索式の中の「△」はスペース。
半角でも全角でもOK。
- ・ CiNiiでは()で囲んだ箇所はグループとなって、
検索式上で優先されます。

※ヒット件数は2026年6月5日時点

検索式①「選挙△動画」

選挙 動画 検索

すべて	研究データ	論文	本	博士論文	プロジェクト	人物	▼ 詳細検索
34	0	25	5	0	3	60	

33

それでは、ここまでご紹介した三つのポイントを踏まえて、実際に検索例題をやってみましょう。

先の検索で、「選挙 スペース 動画」では25件しかヒットしませんでした。AND検索をしたことで、二つのキーワードの両方を含むものが検索にヒットしました。検索結果を増やすために、まずは「選挙」のほうの同義語、類義語、上位語、下位語、関連語を検討します。

検索例題を実際にやってみよう

【キーワード：選挙】

改善策の検討（キーワードを展開する）

- ・件数が明らかに少ないので、「選挙」の同義語、類義語、上位/下位語を検討
- ・類義語「投票」、下位語「衆院選」「参院選」、関連語「政治」
- ・関連キーワードを思いつかないときは、ポイント2で紹介した参考図書やツール類を使う
→「JapanKnowledge Lib」で「選挙」を検索すると、「有権者」「政党」といった関連キーワードが見つかった

検索式② <選挙のグループ> AND 動画

(選挙△OR△投票△OR△衆院選△OR△参院選△OR△有権者△OR△政治△OR△政党)
△動画

(選挙 OR 投票 OR 衆院選 OR 参院選 OR 有権者 OR 政治 OR 政党) 動画							検索
すべて	研究データ	論文	本	博士論文	プロジェクト	人物	詳細検索
114	1	79	10	0	22	264	

「選挙」の言いかえとして、「投票」という類義語を用意しました。また、下位語の「衆院選」「参院選」、関連語の「有権者」「政治」も使ってみましょう。

自分でキーワードが思い浮かばないときは、ポイント2で紹介した参考図書やWebサイトを使うと良いでしょう。

例えば、「JapanKnowledge Lib」で「投票行動」で検索してみたところ、「有権者」「政党」「インターネット選挙」「公職選挙法」といった関連キーワードを入手できました。このうち、「インターネット選挙」「公職選挙法」という語は「選挙」で検索すれば必ずヒットするので、検索語には含めなくても大丈夫です。

これらを使ってOR検索を試してみます。

追加したキーワード全てを「OR」でつなげて、()でくくると、その部分をグループ化することができます。

こうして、「選挙」という概念に関するひとつのグループができました。このグループと、「動画」のキーワードとのAND検索という形で検索すると、結果は79件でした。最初の25件からさらに増えていますよね。

次は「動画」の方のキーワードを検討してみましょう。

検索例題を実際にやってみよう

【キーワード：動画】

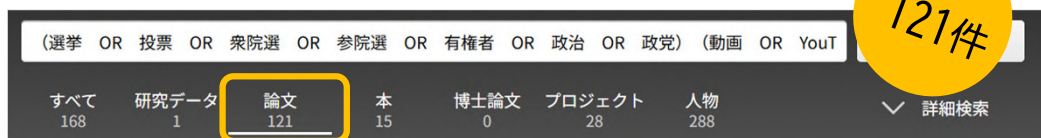
改善策の検討（キーワードを展開する）

- 「動画」だけでなく、YouTube、Instagram、TikTokなどの具体的なサービス名でも検索してみる
- 検索漏れを防ぐため、日本語表記と英語表記の両方をキーワードとして利用する

検索式③ <選挙のグループ> AND <動画のグループ>

(選挙△OR△投票△OR△衆院選△OR△参院選△OR△有権者△OR△政治△OR△政党)

△(動画△OR△YouTube△OR△ユーチューブ△OR△YouTuber△OR△ユーチューバー△OR△Instagram△OR△インスタグラム△OR△TikTok△OR△ティックトック)



「動画」の関連語として、YouTube や Instagram、TikTokを用意しました。日本語論文では、Twitter や Facebookは、英語表記とカタカナ表記の両方が使われる可能性があるのでどちらも候補に入れます。

「選挙」のキーワードのグループを作ったときと同様に、全てを大文字の「OR」でつなげ、()でくくります。こうすることで、「選挙」のグループと、「動画」のグループが、AND検索という形につながります。これで検索すると、結果は121件になりました。

ついでさらに検討してみます

検索例題を実際にやってみよう

【検索結果から】

改善策の検討 検索結果から

- 「ディープフェイク」が関連概念であると分かった
 - 選挙とフェイク動画の関係を扱う論文も見つかった
- ⇒ 「ディープフェイク」「フェイク動画」を検索語に追加する

検索式④ <選挙のグループ> AND <動画のグループ>

(選挙△OR△投票△OR△衆院選△OR△参院選△OR△有権者△OR△政治△OR△政党)

△(動画△OR△YouTube△OR△ユーチューブ△OR△YouTuber△OR△ユーチューバー△OR△Instagram△OR△インスタグラム△OR△TikTok△OR△ティックトック△OR△ディープフェイク△OR△deepfake△OR△フェイク動画)

The screenshot shows a search interface with the following elements:

- Search filters: (選挙 OR 投票 OR 衆院選 OR 参院選 OR 有権者 OR 政治 OR 政党) (動画 OR YouT
- Search results table:

すべて	研究データ	論文	本	博士論文	プロジェクト	人物	詳細検索
189	1	140	17	0	28	290	36
- A yellow circle with the number "140件" (140 items) is overlaid on the results.

さらに、もう少し検索結果を広げる方法はないかを考えてみます。ここでヒントになるのは検索結果に出てきている論文タイトルなどです。検索結果を簡単に見ていくと、他にも見えそうなキーワードを得られることが実際はよくあります。

選挙運動においてフェイク動画が用いられていると指摘する文献が複数見つかったため、「ディープフェイク」も関連するキーワードとして活用できそうだと判断し、検索語に追加してみます。

動画のグループのほうに「ディープフェイク」とその関連語をORで追加してスライドのようにして検索してみると、140件出てきました。最初の19件から比べると、かなり増やすことができました。これでもまだ少ないと思われるときは、これまで紹介した方法を使って検索式をさらに改良してみてください。

これで検索例題は終了です。文献データベースでの検索では、キーワードや検索式を工夫することが非常に重要だと実感していただけたなら幸いです。

データベース検索で心がけること

予測と検証を繰り返す

ヒットが少なすぎる → 検索語を広げる

ヒットが多すぎる → 検索語を絞る

検索結果を見ながら検索式を改善する

検索式と件数を記録する

記録しておくことで、検索式の調整が簡単になる

先行研究調査を再度行う際にも便利

先行研究調査は「探す→見直す→探し直す」の繰り返し。
検索結果そのものが、新しい検索語を見つける手がかりになります。



37

データベース検索で心がけることは、予測と検証が大事、ということです。検索結果が少なすぎる場合には、OR検索を使って、検索語を広げ、逆に、検索結果が多すぎる場合には、AND検索で検索語を絞りましょう。キーワードや検索式は、ばらばらと思いつきで作成するのではなく、予測を立て、検証をしながら、改善していきましょう。検索式と件数を記録しておけば、検索式の調整がスムーズです。

そして、先行研究調査は一度行って終わりではありません。研究を続けていく場合、定期的に調査が必要なタイミングがあります。検索式を記録しておけば、再調査の時にも便利です。

選別作業：検索式の検討が終わったら

検索結果の選別

論文タイトル・抄録・掲載誌などをもとに自分で選別する

検索式で絞り込みすぎると重要文献を見落とすことがある

「すぐ読めるかどうか」は選別基準にしない

選別が終わってから入手へ進む

具体的な入手方法は、本シリーズ②の「フルテキスト入手法」で解説

38

ある程度納得できる検索式が固まったら、検索結果からの選別を自分の目で行います。

検索式で件数を絞り込みすぎると、有用な論文を取りこぼしてしまうことがあります。100件程度の件数であれば、自分の目でざっと確認してみましょう。

論文のタイトルや掲載された雑誌名などをもとに選別をしていきます。

CiNii Research は論文の要約にあたる抄録が含まれているものもありますので、抄録を参考にして選別するのも良いでしょう。

選別の際には「すぐに読めるかできるかどうか」ということは基準にしないでください。すぐに読めない場合でも重要な文献である可能性がありますので、入手の可否は考えずに選別作業を行きましょう。

そして、選別作業が完了してから、実際の入手作業を行います。

この入手作業については、実は阪大で入手できる場合、他大学から取寄せて入手できる場合、国立国会図書館から取寄せて入手できる場合といろいろな入手方法があります。

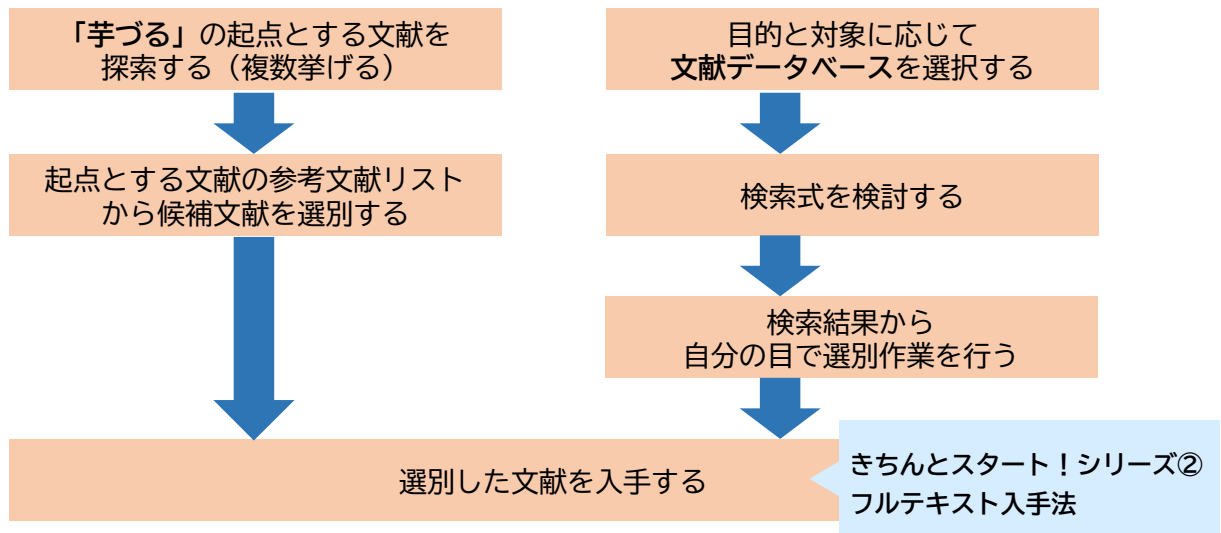
この入手方法については、このシリーズの二つ目の教材「学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法」でご紹介します。

まとめ



最後に、この教材のまとめです。

先行研究調査での文献探索～入手までの流れ（おさらい）



先行研究調査での論文検索から入手までの流れは概ねこのような形です。

左側のラインが「芋づる式」の調査方法、右側のラインが文献データベースによる調査方法です。

片方の方法でしか見つけられない文献もありますので、両方の方法をしっかり併用して、漏れのない先行研究調査へとつなげていきましょう。

そして、この教材で学習したことを、実際に手を動かして身に付けていただければ幸いです。

ご相談ください

総合図書館B棟2F 参考調査カウンター

- 職員がお待ちしています
- 平日9:00-17:00（事前予約不要）
- メール・オンラインでの相談も受け付けます



大阪大学附属図書館 レファレンスデスク

https://www.library.osaka-u.ac.jp/research/reference_desk/

- メール・フォーム・オンラインでの相談受付中
- 附属図書館4館のレファレンス・スタッフが
随時ご相談・参考調査に応じています



実際にやってみると、それぞれのデータベースの使い方や、適切なデータベースの選択、検索式やキーワードの検討などで迷ったり困ったりすることがあるかと思えます。

その際は、ぜひ総合図書館参考調査カウンターへご相談ください。

平日の9時から17時の間、私たち職員がお待ちしています。また、メールやオンラインでの相談も受け付けています。どうぞお気軽にご利用ください。

また、大阪大学附属図書館の4館のレファレンス・スタッフが随時ご相談や調査を受け付けています。メール・フォーム・オンラインの方法で可能ですので、詳しくは、画面のQRコードから図書館Webページをご覧ください。

参考文献リスト

明石芳彦(2018)『社会科学系論文の書き方』ミネルヴァ書房.

秋山哲雄, 田中大喜, 野口華世編(2021)『日本中世史入門：論文を書こう』増補改訂新版. 勉誠出版.

味岡美豊子(2009)『社会人・学生のための情報検索入門』ひつじ書房.

白井利明, 高橋一郎(2013)『よくわかる卒論の書き方』第2版. ミネルヴァ書房.

藤田節子(2007)『キーワード検索がわかる』筑摩書房.

村上紀夫(2019)『歴史学で卒業論文を書くために』創元社.

矢田竣太郎(2025)「動向レビュー：生成AIを用いた文献調査ツール」『カレントアウェアネス』 362号、p. 6-10.

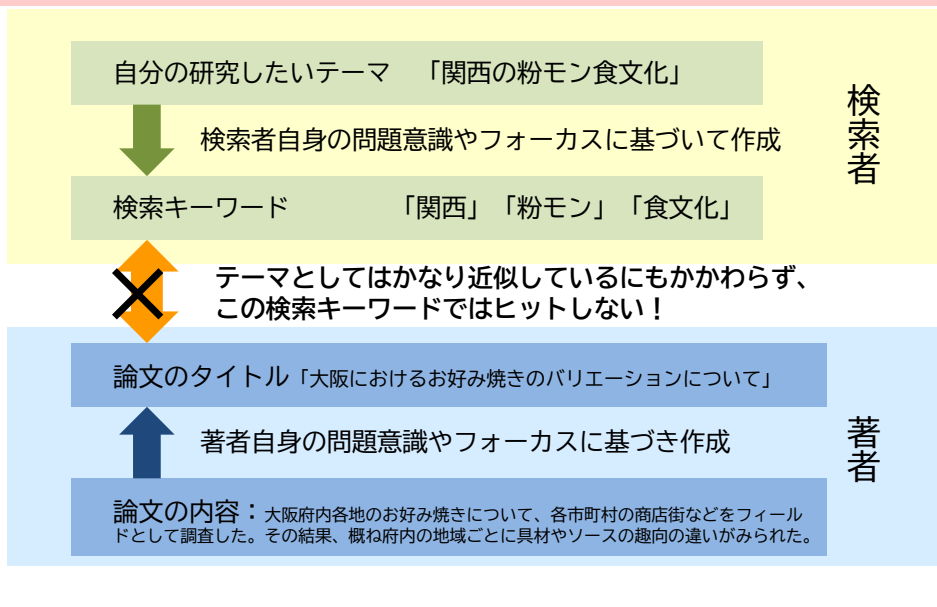
補遺： シソーラスを備えた データベース



ここでは補遺として、シソーラスを備えたデータベースについて紹介します。

シソーラスとは、見出し語と、見出し語同士の関係をセットで収録した「言葉のネットワーク辞書」のようなものだと思ってください。シソーラスを組み込んだデータベースでは、文献に出てくる言葉も、私たちが検索に使う言葉も、シソーラス内の見出し語に紐づけられ、検索のマッチング率が高まるような設計がなされています。

シソーラスの無いデータベースの キーワード検索の仕組み

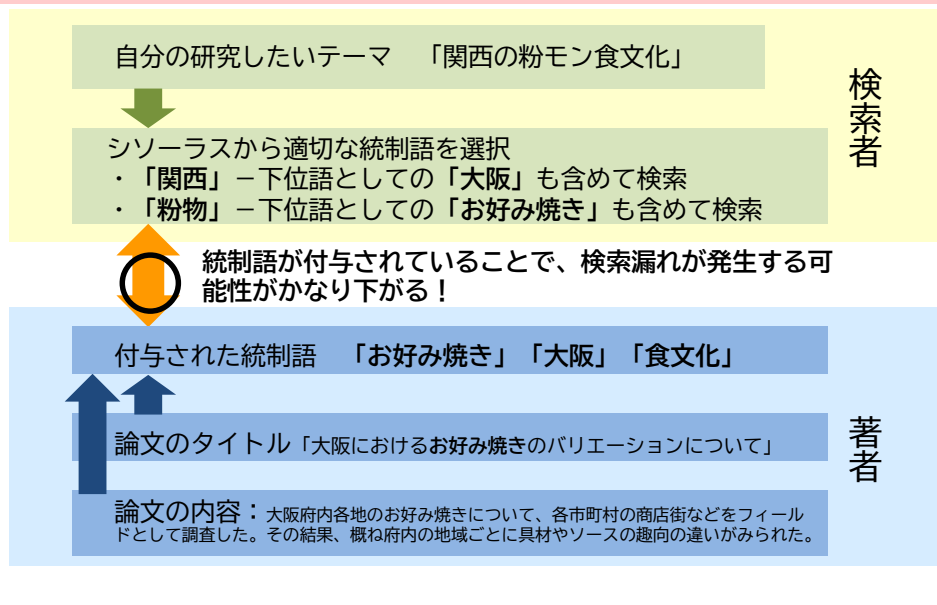


まず、こちらは教材の本編でも紹介しました、CiNii Researchなどシソーラスの無いデータベースの検索の仕組みです。

キーワードと論文のタイトル等が完全に一致しないとヒットしない、というお話をしました。

こちらの例では、「関西」というキーワードでは「大阪」というタイトルがヒットしない、「粉モン」というキーワードでは「お好み焼き」がヒットしない、ということが起こっていますね。

シソーラスのあるデータベースの 統制語検索の仕組み



一方で、シソーラスのあるデータベースではどうでしょうか。

シソーラスの整備された文献データベースでは、各文献に対して「統制語」と呼ばれる言葉が紐づけられています。

定められた基準に基づいて、同じテーマを扱う文献には同じ「統制語」が付与されます。

一つの論文のテーマが多面的にとらえられることもよくあるので、その場合は、複数の「統制語」が付与されます。

このようにルール付けされた統制語があれば、その統制語を用いることで、漏れなく検索することができます。

よく整備されたシソーラスのあるデータベースならば、下位語までまとめて検索したりできて大変便利です。

シソーラスを備えたデータベースを利用するメリット

検索漏れが発生しづらくなる

概念ごとに使用することばを決めているので、同義語・類義語を検討する必要がない
下位語を含んだ検索が可能なデータベースも多い

【注意点】 検索に使用する統制語を選択するのは自分

統制語の選択を用心して行わないと、シソーラスのメリットを発揮できない

先行研究調査はできるだけ「漏れなく」検索したいので、
シソーラスを備えたデータベースを使うのがおすすめ

シソーラスを備えたデータベースを利用するメリットは、検索漏れが発生しづらくなることです。

同じテーマの論文には同じ統制語が付与されているため、講習会の本編で行ったような同義語・類義語を検討する必要がありません。

先の例のように、下記語を含んだ検索が可能なデータベースも多いです。

注意点としては、検索に使用する統制語を選ぶのはユーザー自身だということです。

シソーラスの統制語リストを良く見渡して、どの統制語を選ぶか、ということを用意して行わないと検索漏れが起きてしまう恐れがあります。

こういった注意点はありますが、先行研究調査はできるだけ「漏れなく」行うことを目指していますので、

自分の専門分野にシソーラスを備えたデータベースがあるならば、それを使うことがおすすめです。

シソーラスを備えたデータベースの例

日本語論文のデータベース

- J-Dream III (科学技術・医学・薬学)
- 医中誌web (医学)

残念ながら日本語論文のデータベースでは、CiNii Researchなどシソーラスを備えていないデータベースがほとんど

海外論文のデータベース

特定分野型のデータベースはシソーラスを備えているものが多い
シソーラスの付与の精度はさまざま

新しく文献データベースを使い始めるときには、
シソーラスを備えたデータベースかどうか確認してみるのが
オススメです



具体的に、シソーラスを備えたデータベースを紹介します。

まず、日本語論文のデータベースです。科学技術・医学・薬学分野のJ-DreamIII、
医学分野の医中誌webが挙げられます。

残念ながら、日本語論文のデータベースは、シソーラスの無いデータベースがほとん
どです。

一方で、海外論文のデータベースについて、特定分野型のデータベースであれば、
シソーラスを備えているものが多いです。

新しい文献データベースを使い始めるときは、シソーラスを備えたデータベース
かどうかを確認してみて、シソーラスがあればぜひ有効活用しましょう。

補遺は以上です。e-learning教材をご覧いただき、ありがとうございました。